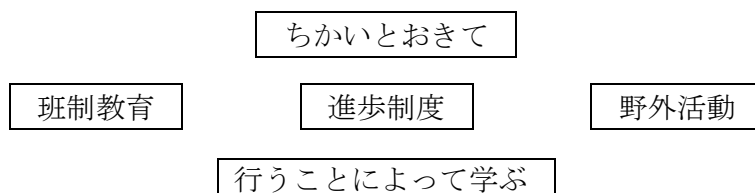


「ボーイ隊のプログラム立案の手引き」

ボーイスカウト日本連盟 プログラム委員会

1. スカウト教育の目的と方法

個人の成長と進歩、その目的を達成するためにボーイスカウトでは独特な教育の方法が確立されています。



「ちかい」と「おきて」の実践を基盤に、小グループの活動（班制教育）、段階的かつ刺激的なプログラム（進歩制度）、自然（野外活動）の方法をもって、体験学習（行うことによって学ぶ）を繰り返すことで成長を促します。これら体験を繰り返し経験することで、教育の4本柱が備わり目的にあるような人材を育成できるわけです。

・人格 ・健康 ・技能 ・奉仕

では、実際の体験とは何を行うべきなのか？教育法にある3つの方法、班制教育、進歩制度、野外活動をボーイスカウトとしてどのようなプログラムをもって、行うことによって学ぶことができるのか、それはボーイスカウト隊においては「スカウトハイク」と「スカウトキャンプ」に集約されます。この2つのプログラムが一番教育法をしっかりと実践できるものであると言っても過言ではありません。

進級課程の細目は全てこれらボーイスカウト部門のプログラムを楽しく、そしてメンバーの一員として責任をもって活動するためのノウハウが詰まっています。

活動に参加し、プログラムを体験することで進歩、進級できる。そのことで胸のバッジが目標とするものに近づき、さらに高い目標をもって次のステップへ進み個人の成長が促される。それらプログラムを繰り返し体験することで、いつのまにか人格が高まり、健康な体を作られ、社会に有益な技能が備わり、奉仕の精神を養うことができるのです。

そのために、ボーイスカウトのプログラムは常に進歩、進級とリンクしていなければなりません。夏の総まとめとなる夏野営で1年間の班と個人の集大成がなされるわけですから、それに向かって班の一員として役に立つには何が必要なのか、個人として目指す進級章を取得するには何が必要なのか、どのような活動をしたいのか、それらスカウトのニーズを集約し年間プログラムを作成し、各月のプログラム（班、隊、個人の活動）を決めて12ヶ月サイクルを回していく、これがボーイスカウトのプログラムです。



2. プログラムと進級のリンク

進歩制度における、進級課程はその制度の中でも個人の成長を目でみてわかるものとして大きな比重がおかれます。魅力あるプログラムとは奇をてらったイベント的なプログラムの羅列ではなく、スカウト教育法に則ったプログラムでなければ本来のものとはなりません。その意味でも、進級課程はプログラムを実践していく中で自然と取得がなされるようにプログラムと進級のリンクが必須となります。

集会にきっちり参加しているスカウトは、ボーイスカウト部門では菊スカウトに、ベンチヤースカウトでは富士スカウトに最終的に進級できている状況が望ましいのです。逆に言えば、80%以上の出席率がありながら進級できてないスカウトが居たならば、それは指導者のプログラム展開の失敗であり、班制教育・進歩制度が十分に理解されていないといっても過言ではありません。

新しい進級課程は、進級課目を年間プログラムに落とし込み、その細目を各集会プログラムに活用できるよう作られています。要は、進級細目ができるプログラムを、その月のテーマに則って計画実施すればいいということになります。全てのスカウトが富士スカウトを目指し、一つひとつ進級できるよう、新たな進級課程を十分に活用してください。

(1) 隊活動

進級課程は改定されましたが、年間プログラム、月間プログラム、隊集会プログラムの企画・計画・実施という流れは従来通りです。

本改定では、進級課程の細目の多くを選択制から必修制とし、各進級章は同等の項目・課目に分けられ、進級章ごとにステップアップしていく内容となっています。年間プログラムもこの進級課目をベースに立てれば、すべてのスカウトに対応出来る年間プログラムとなり、隊集会プログラムの企画計画も立て易くなるはずです。また、班長が班員の進級状況を把握し易くなり、班長会議でも隊長として隊全体の進級状況を確認して適切に指導助言が出来るようになります。

(2) 班活動

ボーイ隊では、複数班体制での班長会議や班長訓練、班会議などを経て隊集会に臨みます。この班活動こそが、隊運営の一番大切な要素です。班は、班長の責任のもとにあり、個人にとって自分の性格（キャラクター）を養成する場所となります。班長は、チームワークとリーダーシップの資質を実践的に身につけ、班員たちは班全体の利益のために利己心を捨てる、チーム精神のため自制心や自己管理することを班活動の中で学びます。

進級課目は、一部の細目を除き、班活動の中で班長が履修を認めてサインすることができます。また、初級スカウト章から菊スカウト章までは、班長会議において進級を認められます。班活動は、個々に合わせた学びの機会と認証の場でもあるのです。



ベンチャー隊では、ボーイ隊で学んだチーム精神やチームワーク、リーダーシップといった実践的な力を発揮して、個人やチームとして活動します。

隊集会やグループでの活動は、その活動の中での責任者（プロジェクトチーフ）の責任のもとに実施されます。自分たちの興味・関心だけでなく、団や地域の要望を交えた活動の中で、自己の成長と団や地域への貢献に寄与します。

3. 役割

(1) 班長の役割

班のイメージなどから班長の役割を説明すると、班長とは「責任」と「信頼」によるリーダーですが、班長が何の技能を有しなくてもよい訳ではありません。技能ができない班長を班員は認めるでしょうか。現実には技能が十分でないこともあるでしょうが、そこに「努力」があるかないかによって大きく結果は異なることと思います。そこで隊長は、班長に「班長訓練」あるいは次長を含めた「グリーンバー訓練」を通じて、隊の年間プログラムに関連づけながら、技能を修得できるようにしていくわけです。

班長は班員の進歩について次のような姿勢で「指導」し、「認定」をしていきます。

まず、班長が教えられることは班長が教える。自分の知らないことやできないことがあれば、できる班員に指導を任せる。班で解決できなければ隊長と相談することです。そして班長が認定することとは、もちろんその課目が達成できたかどうか、自分が指導していない場合はその指導した人の意見をもとに認定するとともに、もっとも大切なことは、その課目を挑戦したスカウトが自分の最善において行ったか、つまり、スカウトのちかいとおきての実践があったかということの評価してあげることです。

このことは「隊長」に求められることと何ら変わりません。「班長」も「隊長」もリーダーということでは同じことでしょう。それが青少年の場合も、成人の場合も「リーダーとしての仕事」の要素は同じと考えられます。

ちかいとおきての実践評価を班長に委ねることは大切です。もともと、班長会議はスカウティング・フォア・ボーイズでいうところの「名誉会議」です。単に隊のプログラムや予定を決めたりするのが、班長会議ではないはずで、そこに「ちかいとおきて」に基づく評価、そしてそれによる表彰や履修の認定があるからこそ、民主的な自治が高まるのです。その仕組みをうまく適用することが大切だと思います。

ただし、安全にかかわることや「ちかい」「おきて」に関する事等、その他の理由により、認定ということでは班長だけでなく、隊長、もしくは家族、地域の方も関与するよう設定しています。



(2) ジュニアリーダーの役割

ボーイスカウト日本連盟では、現在、満 20 歳以上を成人指導者として、各隊の隊長、副隊長、カブ隊のデンリーダー、団委員等に対して少年の訓育、青少年教育に適した人を団委員会で任命または委嘱をします。この成人指導者（アダルト・リーダー）に対して、部門のスカウトの年齢に近いリーダー格になるスカウトを「ジュニアリーダー」（年少の指導者、少年の指導者）と呼びます。

ボーイスカウト隊におけるジュニアリーダーは、隊運営にとって欠かせない存在です。ボーイ隊のスカウトが少人数だから、また、適任者が見つからない等々でジュニアリーダーを任命していないボーイ隊が多々見受けられますが、このジュニアリーダーの存在が、ボーイ隊活動および隊運営の中心にならなければなりません。なぜならば、このボーイスカウト運動は、「青少年の青少年による青少年のための」運動を成人指導者が支援をして成り立つ運動だからです。

現在、ジュニアリーダーと呼ばれる役務呼称は、「上級班長」、「隊付」「班長」時として「次長」と呼ばれる年長のスカウト達です。また、「隊付」と一口に読んでいますが、隊運営の役務を分担するスカウトで、隊付の役務呼称は本来、隊の「備品係」、「記録係」、「図書係」、「書記」等、場合によっては、「カブ隊デンコーチ」、「ビーバー隊の補助者」、等々、ボーイ隊の運営に関与する事、および他の隊に対する奉仕に関わる仕事を分担している役務です。

本来は、ボーイ隊の隊員から上級班長、隊付が班長会議の承認を受けて隊長が任命をしますが、ボーイ隊に適任者が得られない場合、ベンチャー隊から派遣されることもあります。どちらの場合でも任命については、班長会議の承認を受けて、ボーイ隊長が任命をします。

現在のベンチャー隊のスカウトが、上記「ジュニアリーダー」の役割を分担して隊活動の中心として活躍をしてくれることを望んでいます。ジュニアリーダーのそれぞれの役割と責務について、記述したいと思います。



(3) 上級班長としての役割と責務・・・Senior Patrol Leader

上級班長であるスカウトは、班の一員ではありません。したがって班でハイキングに行き、一緒に冒険をすることは出来ません。しかし、隊全体で行うハイキングやキャンプの場では、上級班長が指導しつつ、スカウトと一緒に活動を楽しむことが出来るのです。また、スカウトにとっては年長のスカウトと共に高度冒険活動や他の行事に参加することが出来ます。そして「班長会議」の中心人物となるのです。

なお、任命にあたり、過去に班長の経験を有し、1級スカウト以上の実力を持つ、高校1年生以上の指導力を有するスカウトが適任であり、班長会議に諮った後、隊長が任命する。先ずは上級班長が行うべきことを書き出してみますと、以下のとおりです。

- 1) 事前に隊長と相談し、「年間プログラム」と活動原案について相談する。
- 2) 全ての隊集会、隊行事・活動の実施展開及び、年間プログラム計画会議を主宰する。
- 3) 班長会議の座長となる。
- 4) 隊長の助言と相談により他のジュニアリーダーを指名し、それぞれの役務と責任を振り分ける。
- 5) 隊長と共にジュニアトレーニング（班長訓練）を実施する。
- 6) スカウトとしての良き見本を示す事。
- 7) 常にユニフォームを正しく着用する。（着方の見本となる）
- 8) スカウトの「ちかい」と「おきて」を日常生活で実践する。
- 9) スカウト精神を発揮する事。
- 10) 「セーフ・フロム・ハーム」を理解し進んで実践するとともに、隊内で見本を示すこと。

隊の中では、上級班長以外にも「隊付」と言うジュニアリーダーの役務責任を受け持つ係が存在します。隊運営において様々な事柄を分担します。隊の大きさ、必要性により、隊の他の役割を振り分けられます。隊長の支援を受けつつ上級班長は、以下の役務を担当する者を選びます。

現在のプログラムでは、隊付に具体的かつ明確な役割を定めていません。年齢が上だとか、かつて班経験したからといった観点からの任命が多いように見受けられます。しかし、下記のように明確に役務内容を示して、そのことを専門に処理してもらうことも隊の運営上、大切であり、本人も責任を学ぶことにつながります。

隊の伝統や規模にもよるため一例として以下に示します。隊付の役割を明確にし、どの役割は誰かが担当もしくは兼務するのか、あるいはなくて良いのかを考えた上で、スカウトと相談の上、隊として選任してください。隊付は、指導力を有する1級スカウト以上の実力があるスカウトで、班長会議に諮った上で任命されます。



(4) 隊付の役割と責任

1) 備品係・・・Troop Quartermaster

隊の備品・装備を管理し、在庫数の把握、使用可能の状態にあるかの分別と必要な修理の実行。破損、損傷等の場合は、隊長に報告して、新しいものに置き換えていくようにしましょう。

役割

- 班と隊の備品を記録する
- 備品が良好に使用できる状態であることを確認する
- 備品の貸し出しを行い、良好な状態で返却されることを確認する
- 備品の導入や交換の提案をする
- 備品を担当する、団委員と協力する

2) 書記・・・Troop Scribe

班長会議を始め、キャンプ中の打合せを含め、一切の打合せ内容を記録し保管します。また、常にその年度、有り右派関係する資料を持参し、問題点が発生した時には、いつの記録ではこうなっていると説明する仕事です。

役割

- 班長会議に出席し記録をとる
- スカウトのそれぞれの出席状況と集金状況を記録する
- スカウトのそれぞれの進歩状況を記録する
- 記録と会計を担当する団委員と協働する

3) 歴史記録保全係・・・Troop Historian

隊の活動に記録・写真等を年度ごとにスクラップブック等に貼り付けたり、その年度の在籍者をファイルし、1冊で年度の状態が分かるようにする係です。10年以上経った時に、記録として、あるいはOB会等で重要な意味を持ちます。

役割

- 隊の褒章授、記念品、参加授などを管理する
- 隊の過去のメンバーの情報を管理する

4) 図書係・・・Troop Librarian

今や本の数も多くなりましたが、古い本は貴重なものです。また、新刊の本等も揃えると、個人で買わなくても皆で使用できますので、貸出帳を作って管理することです。

役割

- 隊が保管する書籍や資料を記録する
- 必要に応じて新たに追加したり、入れ替えをする
- 書籍や資料を貸し出し可能にする
- 未返却の確認を行う

